



# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



「華道でも、茶道でも、柔道でも、剣道でも、どんな道でも作法というものがあ

る。歩み方というものがあ

る。その中に上達していく道がある」

信仰の歩みも同じである、と説いたのは中臺勤治氏です。では「信仰の作法」とはどんなものなのでしょう。か。

理解、反対から生じる様々な迷い、あるいは悩みの治め方の基本を示して励まされ、また、陽気づつめによるたすけを重

ねて仰せられ(『みかぐらうた略解』より)ている部分です。

同じように、「道を通らせていただくものの心がまえ、心の置所についてお諭しく

だされているように思われる」と述べたのは、榊井孝四郎氏でした(『みかぐらうた語り艸』)。

今回は、四下り目の中から「信仰者の心構え」を学んでみたいと思います。



「ふたり」とは誰のことか

「ふたりのこゝろををさめいよ になにかのことをもあらはれる」とは、先のお言葉に続くかたちで「そのようにして自分の気持ちが見ま

つたら、夫婦をはじめ親子や兄弟など、一番身近な人との間で、親神様の思召に心をそえるようにせよ、そうすれば、いままで想像もしなかつたような不思議なご守護の姿をお見せいただける、というふうに解釈できます(深谷太清『十二下りのてをどりを身近に』より)。

また、「ふうふのこゝろ」ではなく「ふたりのこゝろ」とされていることから考えれば、「ふたり」とは夫婦のことを含みつつ、親子や兄弟など、身近に関わり合う人をも指すと解釈すべきでしょう。

ように述べておられます。すべての心を統一することが神の望みである。(中略)夫婦の心が一致し、親子の心が一致するのは大切なことであり、又おさ

めるという事がこの上ない大切なことである(『みかぐらうた講話』)。

ちなみに、四ツの「うたてかろ」は大和の方言で、「わずらわしいだろう」「めんどうだろう」という意味だそうです。

初代会長様はこの下りをまとめ「お道の有難いというのは根柢のある有難いということである」として、火水風のご守護を頂き、かりものの体で働かせていただくから金銭物品が身に付いてくるのであって、生かされていることのありがたさを感じるのであると書かれています。お道の信仰の「作法」とは、やはりか

### 11月のこよみ

#### 入社祭

1日 午前10時

#### よふき会例会

2日 午前10時

#### 月次祭

13日 午前10時

#### 青年会例会

13日 午前10時

#### 布教実修所

14日 午前10時

#### むつみ会例会

16日 午前10時

#### こども食堂MOGU

17日 午後5時

#### 婦人会例会

20日 午前10時

#### 女子青年例会

25日 午前10時

#### 第97回天理教青年会総会

25日 午前11時

#### 夕づとめ後 後夜祭

#### 本部月次祭

26日 午前9時

教理随想

### 言わん言えんの理を探る

教祖年祭へ向かう歩みの中で大切な点は、常におたすけを心がけて日々を送ることです。おたすけといつても何も難しく考える必要はありません。論達第四号にはおたすけの順序と要点

が明解に示されています。まず、身上や事情で悩む人には、親身に寄り添うこと。たとえ相手が近くにいなくても、今は電話やメールでいくらでも寄り添うことができます。次におつとめで治まりを願うこと。これも誰の許可もいらず、心一つでいつでも誰にでもできる行いです。次は、病む人におさづけを取り次ぐこと。少し勇気がいりますが、家族や友人知人には積極的におさづけを取り次ぐ努力が求められています。そして真にたすかる道があることを伝える。教祖が、このみち八どふゆう事にもうかな このよをさめるしんぢつのみち (六一四)



と仰せられるように、この道こそ世界が治まり、真にたすかる道であるという自信を持って、言葉と態度と行いで教えを示していくことがおたすけであります。「たすかる」というと、病気が治ったり事情が解決する姿を想像します。もちろんそれも「たすかり」の一

つですが、そこから「真のたすかり」へと歩を進めるには、親神様の十全の守護によつて人間と世界が守られていくことに気づかなくはなりません。

このご守護の世界は目には見えないので、心で捉えるしかないのですが、その真実をまず自らが味わい、周囲の人に伝えていく努力こそ、原典を通して促される教祖の思召であります。

#### ■選べるのはほんの一部

一つの例として「つながり」を考えてみましょう。

つながりとは、言い換えれば「縁」です。私たちの人生にとつて縁ほど大切なものはありません。たとえば進学や就職、転職をして、

そこで出会う人や組織のおかげで、心が豊かになって円満な関係が築かれれば、人生は明るいものとなりますが、反対に悪い縁がつながると、残念な結果になってしまいかねません。しかし実際には、人のつながりまで考えて進学や就職、転職をする人はほとんどいない。つまり私たちが選べるのは、人や社会のほんの一部であつて、そこでどんな縁とつながるか、目には見えない親神様のご守護によるということなのです。

十全の守護によれば、「つながり」のご守護をくださっているのはくにさづちのみことですから、この働きをいただいたならば良縁がつながつて、家庭も社会も円満に治まっていけます。

そのための重要な信仰上の心使いが「たんのう」です。先人は、「たんのうはつなぐ理、不足は切る理」とお諭しくださいました。

たんのうとは、喜びにくい状況を喜びに変えようとする努力ですが、目に見える世界や常識だけを基準にしていたのではたんのうの心は治まらず、喜びが湧き上がることはありません。

ここで重要なのが「いんねんの自覚」です。自分の親や先祖を知り、身上や事情の系譜を探る。同時に、縁あつて自分が出会う相手の姿を、自らの魂のいんねんが鏡に映る姿と悟り、積極的に喜びを見出す努力を続ける。このように思案を深めていって次第にたんのうの心が治まれば、その心にくにさづちのみことの働きが鮮やかに現れて、あらゆる方面で「つながり」のご守護をいただくことができる。これが本当のたすかりであります。

目に見える世界だけでなく見えない世界にも心の焦点を合わせて、たんのうの心を培っていきましょう。

【第 107 回】

## たんのうの信仰を心に培い 真にたすかる道を伝えよう

たんのうとは、喜びにくい状況を喜びに変えようとする努力ですが、目に見える世界や常識だけを基準にしていたのではたんのうの心は治まらず、喜びが湧き上がることはありません。ここで重要なのが「いんねんの自覚」です。自分の親や先祖を知り、身上や事情の系譜を探る。同時に、縁あつて自分が出会う相手の姿を、自らの魂のいんねんが鏡に映る姿と悟り、積極的に喜びを見出す努力を続ける。このように思案を深めていって次第にたんのうの心が治まれば、その心にくにさづちのみことの働きが鮮やかに現れて、あらゆる方面で「つながり」のご守護をいただくことができる。これが本当のたすかりであります。

**YouTube**  
 10月13日秋季大祭に  
 おける大教会長挨拶  
 (限定配信)



9月の初席者  
 カラヨグ・ジョセイ  
 シダ・ベイビー (本和合)  
 澁谷理一 (本耕愛)  
 山田友里佳 (本知立)  
 二井喜洋 (本愛中)

修養科第985期修了者  
 樋口安幸 (本滋賀)  
 門田愛美 (本理愛)

7月 松原 悟 (本耕)  
 8月 佐藤 明美 (本土佐)  
 板山 眞一 (本濱松)  
 9月 水野 一徳 (本正徳)

右の各氏が教養掛を務めた。

## 公式サイトと YouTube をご活用ください!

**こんなに便利**



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

**楽しく学ぶ**

心定め



**検索**

- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

# 大教会日誌

令和5年9月25日～令和5年10月24日

## 9月

25日 修養科志願者面接 (於：本愛詰所)

26日 本部月次祭

28～30日 全教一斉にをいがけデー

## 13日 秋季大祭

祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、野田正道

指図方・安藤正二郎 賛者・出口邦郎、久保眞樹

◇祭典講話一部部員・高安大教会長

松村義司先生

## 10月

1日 入社祭

◇大教会長挨拶

祭主・大教会長 扨者・和光重男、伊藤寿輝

青年会例会

指図方・野田正道 賛者・佐藤幸一郎、大橋善太郎

14日 布教実修所

◇祭典講話—松原悟

15日 女子青年例会

2日 よふき会例会

16日 むつみ会例会

おつとめ・十二下りてをどり・連絡会

17日 こども食堂MOGU (参加者74人)

12日 常任役員会議

20日 婦人会例会